

羣書類從

百九十七

庫	文	閣	內	
三六函架	六六六册	一八六九〇號	和書類	

庫	文	閣	內	
三五函架	六六六册	一八六九〇號	和書類	

內閣文庫		
番號	和 18690	
冊數	666 (257)	
函號	215	3



皇朝通志卷之九十七

一 檢校保己一系



皇朝通志

卷之九十七

皇朝通志卷之九十七

羣書類從卷第百九十七

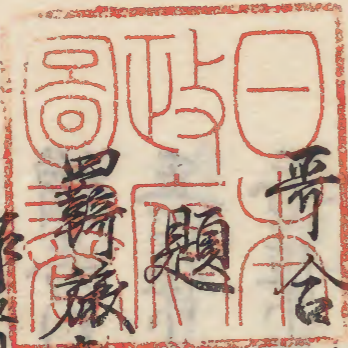
淺草文庫

檢校保巳一集

和歌部五十二

平倉八

建保五年四月廿日



郭公

河内夏草

寄松述懐

作者

尤

御製

系議正三位少左近衛權中将兼讚岐權守藤原朝臣實氏

卷百九十七

一

右

丹後守純宗

明くも三馬村ありてきけり文行ありて文はう那

三番

左

右議経道

家なる山崎鳥とて神とてありてとて神とてありて

右

左近中将忠定

今夜のいふ山とて國の雲はもけり急遠をわきまはる

四番

左

後三位家衡

旅のさき山とて山とては都の山とて雲ありてあり

右

左衛門尉康光

あはれとてさきとてはもありて山とては月あり

五番

左

右議定家

郭なる神も旅ありてかちの花をとりて雲をありて

右

宮内卿家隆

駒もむ野中の森のさきとて鳴や向乃山ありてあり

六番

左

御製

夏川や浅瀬よありてはさきとては水の名ありてあり

右

僧正

茂しあし草のまきしうもまきそとせし浪あし野河の西河

七番

左

實氏卿

河の底より流るる舟は此よりあるや海に流れてせゆ

右

範宗朝下

山河乃岩とせし草浪あしえとくあるも源一地甚乃久等

八番

左

經通卿

かきよもじしうしりや海あし草たせしうしりやうしりよ

右
あまら思谷の茂草とあまら山後ち葉又山河の水

九番

左

家衡卿

日影ある堤のころし村あしうしりやあまらあまら

右

藤原康光

浪あし河原よりうしりやあまらあまらあまら

十番

左

定家卿

復原の道へ流あしし川よりあまら水のうしりやあまら

吉

家隆卿

寛文九年の武嶋川より皇女御をゆくる色草涼しく
十一番 昇松述懐

左

御製

今昔ある如野の松れ陰志もよめるの神の恵ありき

右

僧正

任きの松はいよんあよる君の位代とす可くある

十二番

左

實氏卿

あはれ松よ松を思をこころよ思ひあてしは唐の文

吉

範宗朝卜

黒髪のおまう後も年あて松の信れ山雲のま
十三番

左

經通卿

身のしを思ひ松昔人の深夜は後くくる松の風邪

右

忠定朝卜

あはれ事ちこころを木枯の松よるまきとくる比ふ邪

十四番

左

家徳々

君の代の楯引茶のまきれ松おひのる身は雲たのまきとす

右 康光

万代とてそあやむ松のわねとみうと袖とあつ
十の番

右 定家

花の下紅葉のよきよ志を秋はくま年方元松よりよ
右 院隆郷

去年の美袖よやくと松のあけとあふ

十の番 身代かーあふ

右建保五年四月廿日歌合以村井致義本校合

右大将家等合 建保五年八月十日

題

虫聲鼓為夢 曉惜別意

作者

左

右大将通光

藤原朝臣定家

右

大納言云経

藤原朝臣家隆

右大僧正意内

藤原朝臣雅経

僧正行意

藤原朝臣秀経